

医療介護福祉政策研究フォーラム

2025年に向けての地域医療
超高齢化の首都圏での課題

実践発表II

在宅医療～開業医の立場から

平成25年11月16日

日本プレスセンタービル10階・ホールABC

西田医院 西田伸一

本日のお話

- 在宅医療を始めたきっかけ
- 当院の在宅医療について
- 地域の現状（調布市）
- 都市の在宅医療に求められること

在宅医療を始めたきっかけ

大学の救命救急センターで
外科医として3次救急に従事

外科病院 3年
大学病院の3次救急 5年
海外の集中治療 1年
一般病院の2次・3次救急 7年

一般病院の救急医療センター(ICU5床、後方病床20床)
2次・3次救急に従事
(多発外傷、急性腹症、熱傷、病院外心肺停止、重症内科疾患 等)

救急医 16年

+

救急医療センター外来

+

往診チーム

診療所の継承

- ・病院から地域、地域から病院への継続した医療
- ・他職種間の連携

まち医者 13年生

救急医療に必要なのは救急専門医ではなく、各専門分野の医師
に対する救急医療の教育と、救急の場で各領域の専門医が迅速
に機能できる病院のシステムである。

在宅医療とは

在宅で展開される、在宅ケアのコーディネート機能を持った総合医療。

医学の専門分野というよりは、総合医療の社会的側面。

医療法人社団梶社会 西田医院

- 運営形態
- ・自宅併設・地域密着型総合診療科
 - ・機能強化型在宅療養支援診療所
 - ・訪問看護ステーション併設
- (・有床診療所を設計中)

在宅医療の時間を増やしたい

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日	
9～12時	○	○	○	○	○	○		
13～16時	●	●	●	●	●	●		○外来 30時間
16～19時	○	○	○	●	○			●訪問 21時間

標榜科 内科、外科、小児科

医師 常勤1名（日本外科学会・救急医学会・在宅医学会認定専門医）
非常勤1名（リハビリテーション科専門医）

在宅医療件数(平成25年9月10日時点)

- ・訪問診療患者数 在宅:51件 施設:72件
- ・過去1年間の看取り件数 25件



ゲゲゲ・ドクターズネット

機能強化型在宅療養支援診療所(連携型)

参加医療機関

一般診療所	常勤・非常勤各1名
一般診療所	常勤1名
一般診療所	常勤医2名、非常勤11名
一般診療所	常勤1名、非常勤7名
在宅専門クリニック	常勤・非常勤各1名
病院(精神科・内科)	320床

ルール

- ・一週間単位の当番制
- ・情報共有ツール: クラウドシステム(TRITRUS)
- ・日頃の連絡ツール: LINE
- ・看取り代行の際は看取った医療機関が死亡診断書を作成し保険請求



当院の在宅への訪問頻度

健康管理だけの方： 月1回

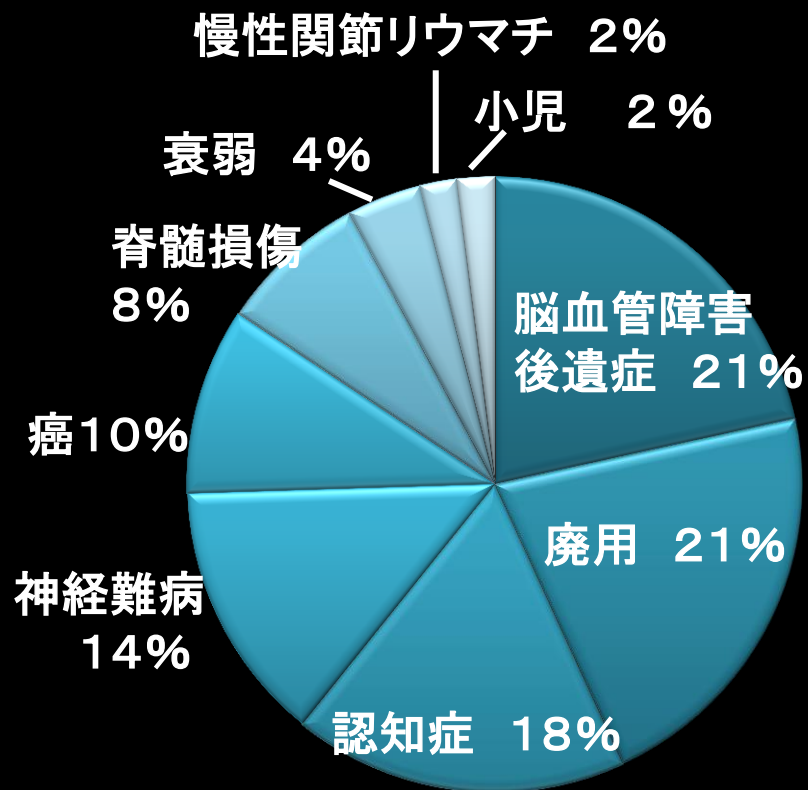
病状の安定した慢性期疾患の方： 月1～2回

人工呼吸器使用等重症慢性疾患の方： 週1回

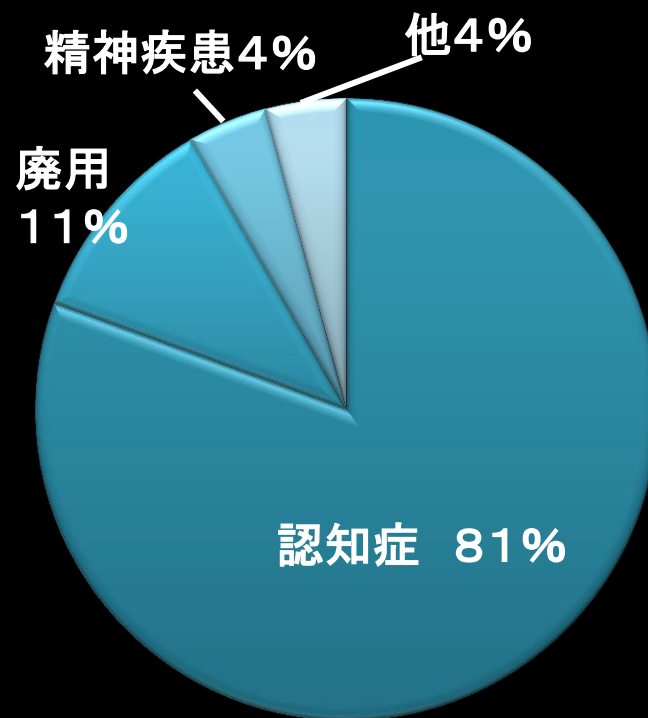
末期がん等のターミナルケア： 週2回～毎日

当院の訪問診療患者の主たる病名

平成25年9月10日現在



在宅療養者



施設入居者

訪問開始から看取りまでの日数

在宅で看取った127件

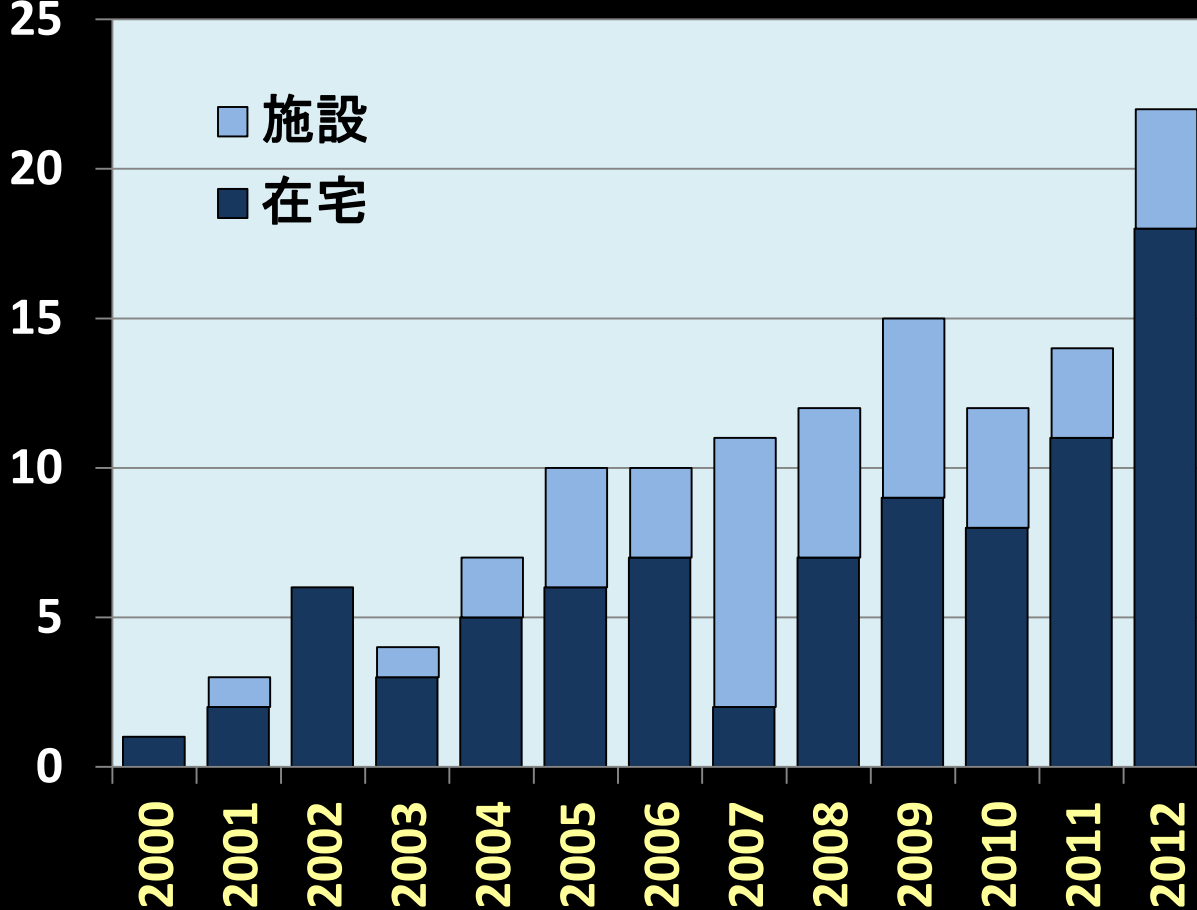
(平成12年8月～平成24年11月30日)

	癌	非癌
在宅	102.2±146.3日	426.2±529.7
施設	1242.4±1976.5	1123.9±862.5

年度別看取り件数

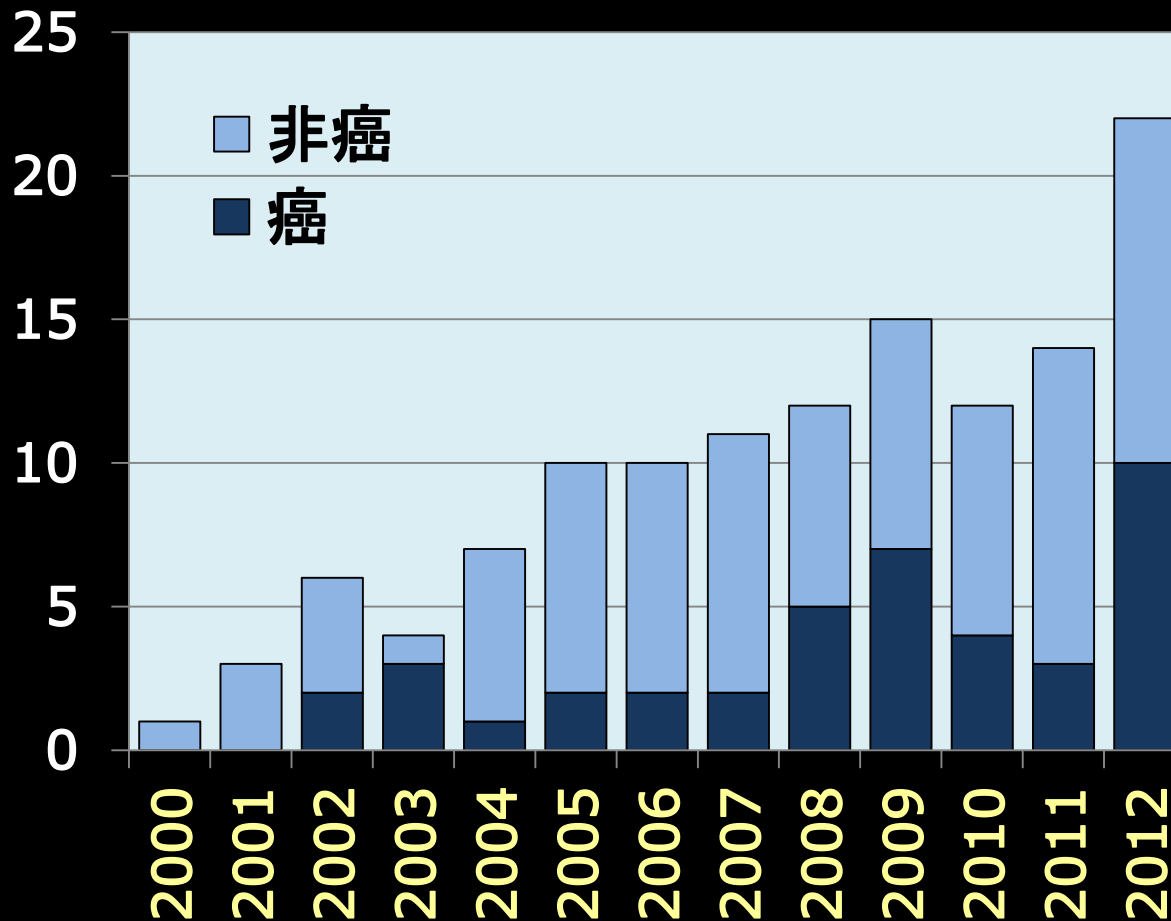
(n=127)

看取り件数



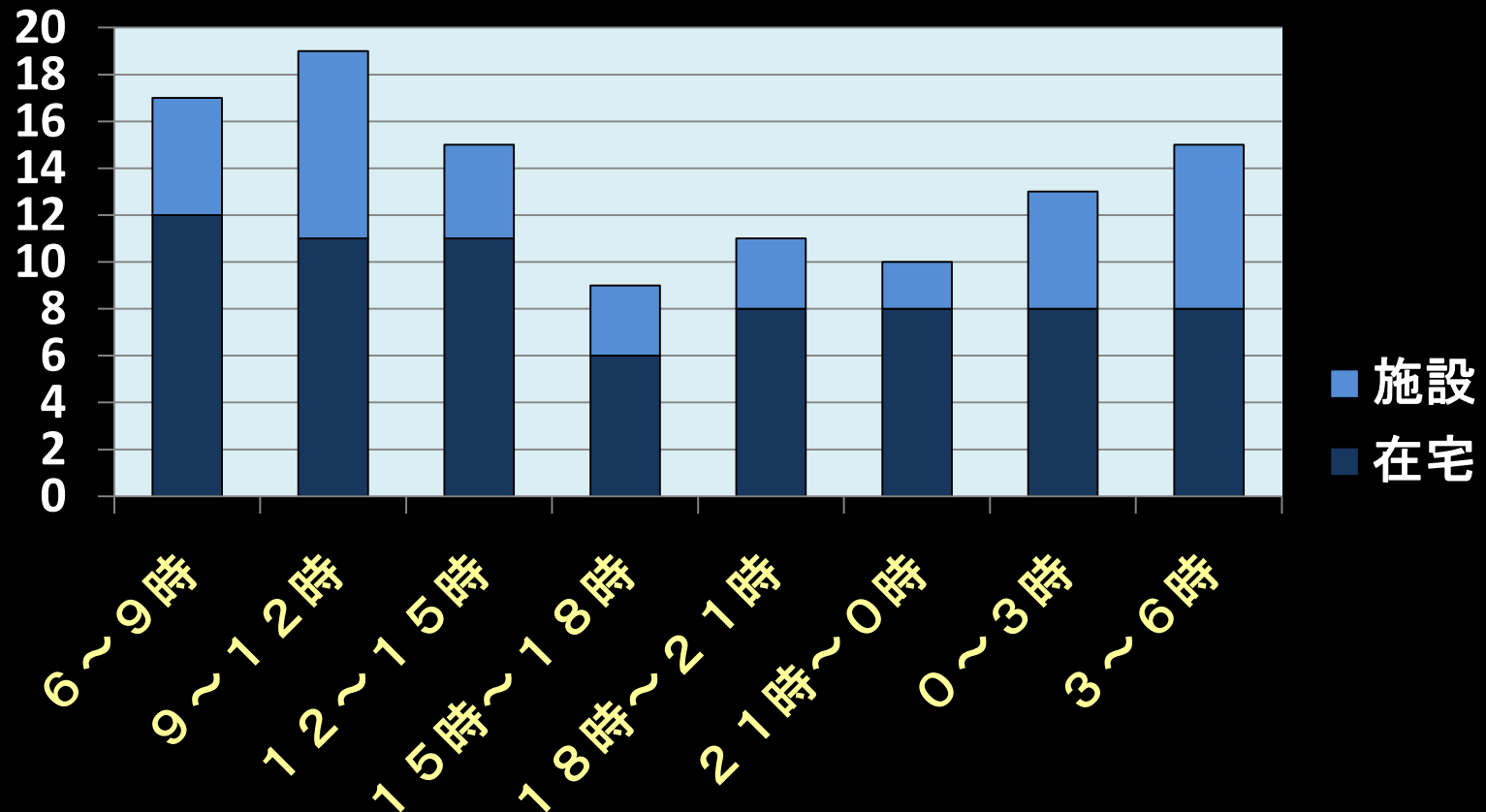
当院の死因別・年度別看取り件数 (n=127)

看取り件数



看取りの時間帯

在宅で看取りを行った127例



看取りの一例

80歳女性

グループホーム入居中に肺炎を併発し入院。本人・家族の希望により、ホームでの看取りが計画された。ホームの契約医師が担当を拒否したため、当院に訪問診療依頼。退院当日、呼吸状態悪化にて往診。スタッフが懸命に介護するも、患者の呼吸状態と意識状態は徐々に悪化。ホーム長がベッド上で患者を抱きかかえ頼ずりしながら“大丈夫！”を繰り返す中、やがて患者は大きいため息をつくような呼吸を残し眠るように旅立たれた。

……初めての看取りの経験であったとのこと

- ・技術よりハート
- ・遠くの身内より近くの他人
- ・“病気治療”という正義を振りかざして人生のフィナーレを台無しにしてはならない。

よい看取りを行えなかった2例

1. 多系統萎縮症（DNAR）

旅行中に予期していた急変。

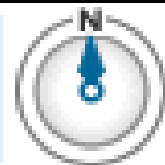
連携医に依頼したが、家族の希望で当院で
一日遅れの死亡診断。

2. 肺がん末期（DNAR）

旅行中に予期せぬ急変。

病院主治医当直のため、病院搬送し死亡確認。

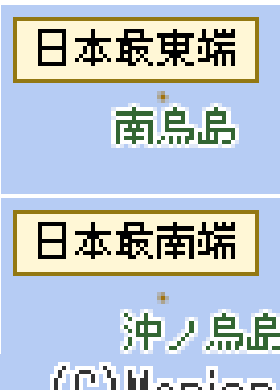
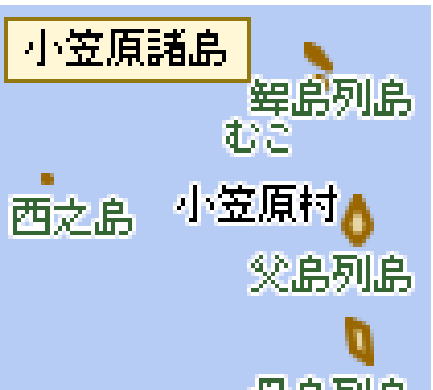
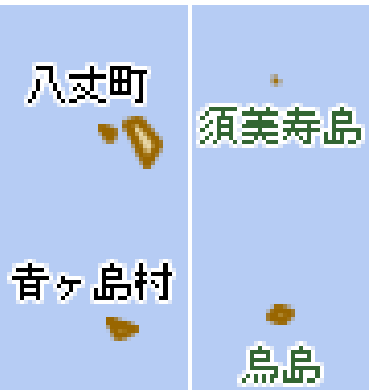
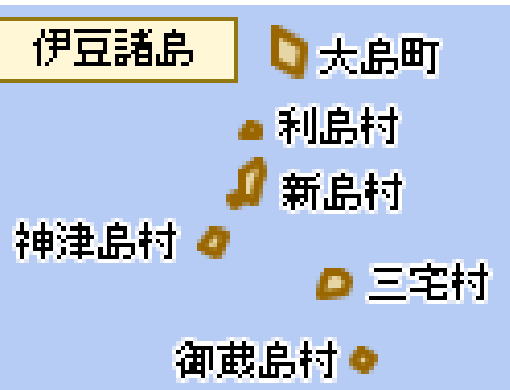
調布市の現状



埼玉県



	調布市	東京都
人口	224,036人	13,282,271人
高齢化率	20.1%	20.8%



調布市総人口・高齢者人口

	H18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年
総人口	213613	215750	218471	220875	221441	222187	224036
高齢者	36936	38282	39771	41066	41718	42380	45031
64歳以下	176677	177468	178700	179809	179723	179807	179005
高齢化率	17.3%	17.7%	18.2%	18.6%	18.8%	19.1%	20.1%

調布市要介護認定者数(平成24年度)

	実績値	計画比
要支援1	1345	151.8%
要支援2	1238	103.6%
要介護1	1143	83.1%
要介護2	1306	93.8%
要介護3	892	79.8%
要介護4	903	106.0%
要介護5	875	103.8%

調布市の概要



調布市の介護サービス資源

地域包括支援センター 10(全て委託)

居宅介護支援事業所	26	特定施設 福祉用具貸与・販売	3
訪問介護事業所	22	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1
訪問看護ステーション	11	小規模多機能型居宅介護	1
訪問リハビリステーション	1	認知症対応型共同生活介護	9
訪問入浴	2	地域密着型介護福祉施設	1
通所介護	24	介護老人福祉施設	6
認知症対応型通所介護	5	介護老人保健施設	4
通所リハビリ	5	介護付有料老人ホーム	1 1
短期入所生活介護	5	住宅型有料老人ホーム	3
短期入所療養介護	4	サービス付高齢者住宅	2

調布市の医療機関数

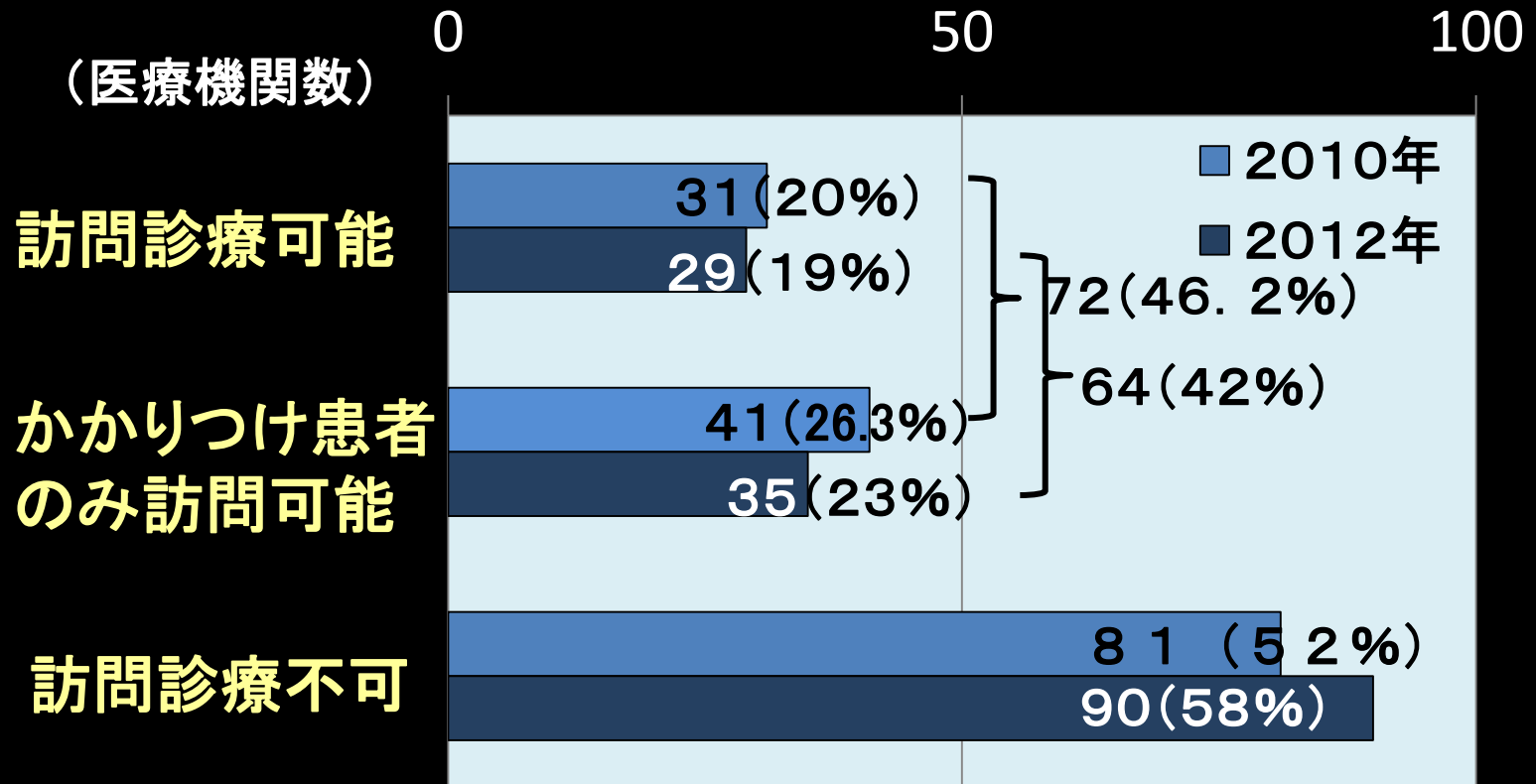
(25年8月1日現在)

医療機関数 179件 (東京都 12628件)

	医師会所属	非所属	計
診療所	145件	23件	168件
在宅専門クリニック	2	1	3
病院	8	0	8

訪問診療の可否（調布市）

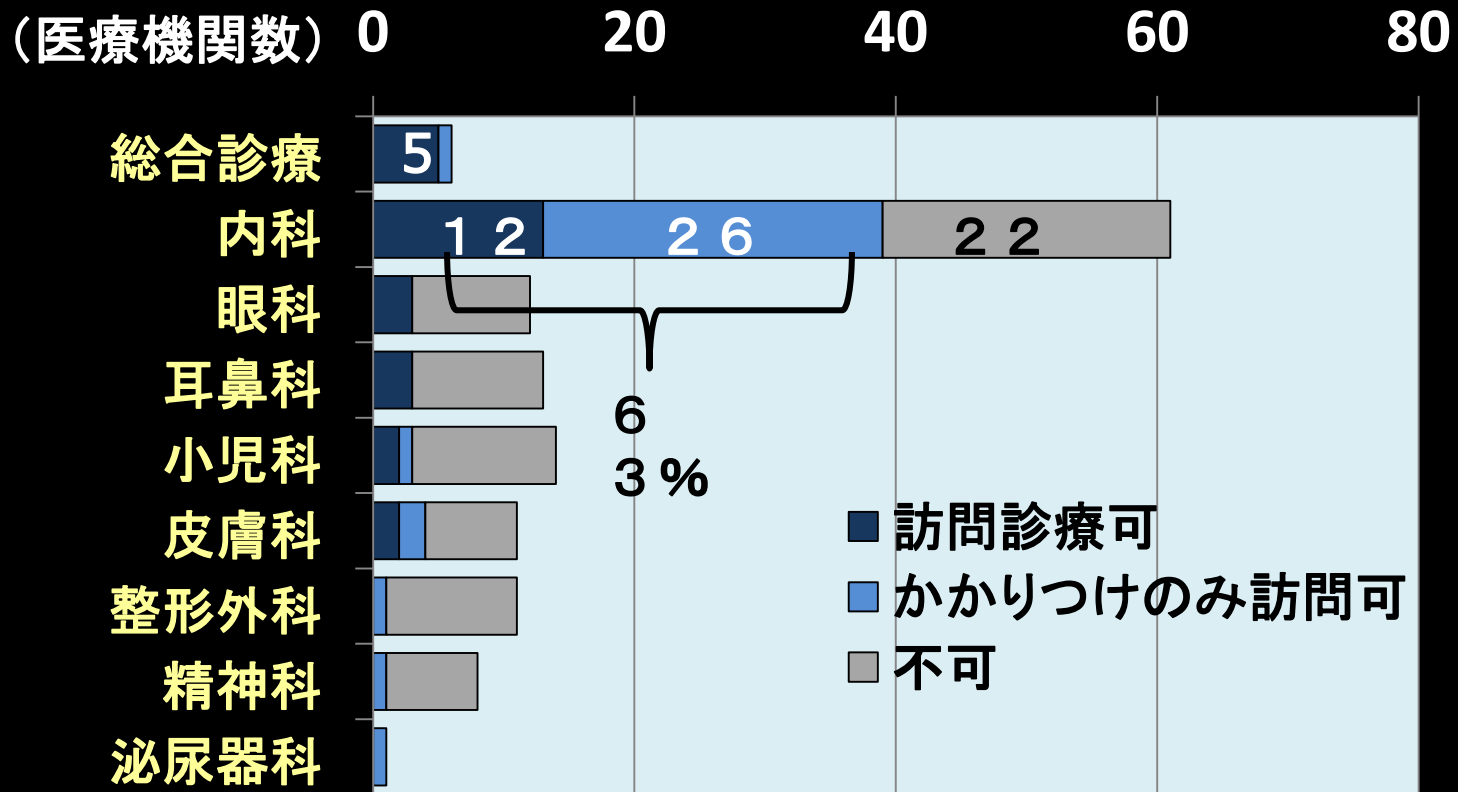
調布市医師会所属医療機関 2010年 n=156
2012年 n=154



要介護高齢者数／訪問診療可能な医療機関数 (5119／29) = 176人

診療科別の訪問診療の可否（調布市）

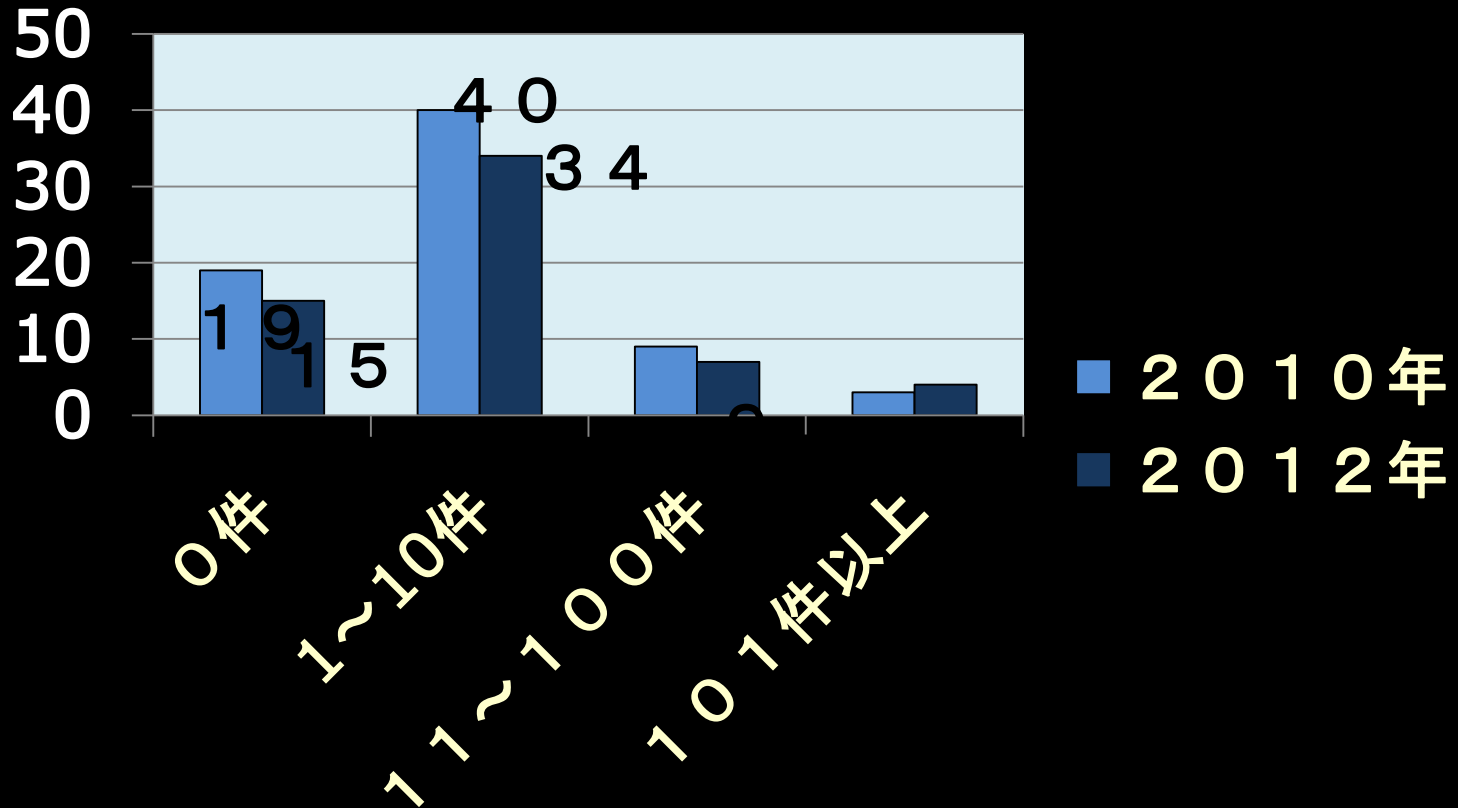
調布市医師会所属医療機関 n=154（2012年）



東京都調べ： 内科診療所の36%は在宅医療を行っている

訪問診療件数 (調布市)

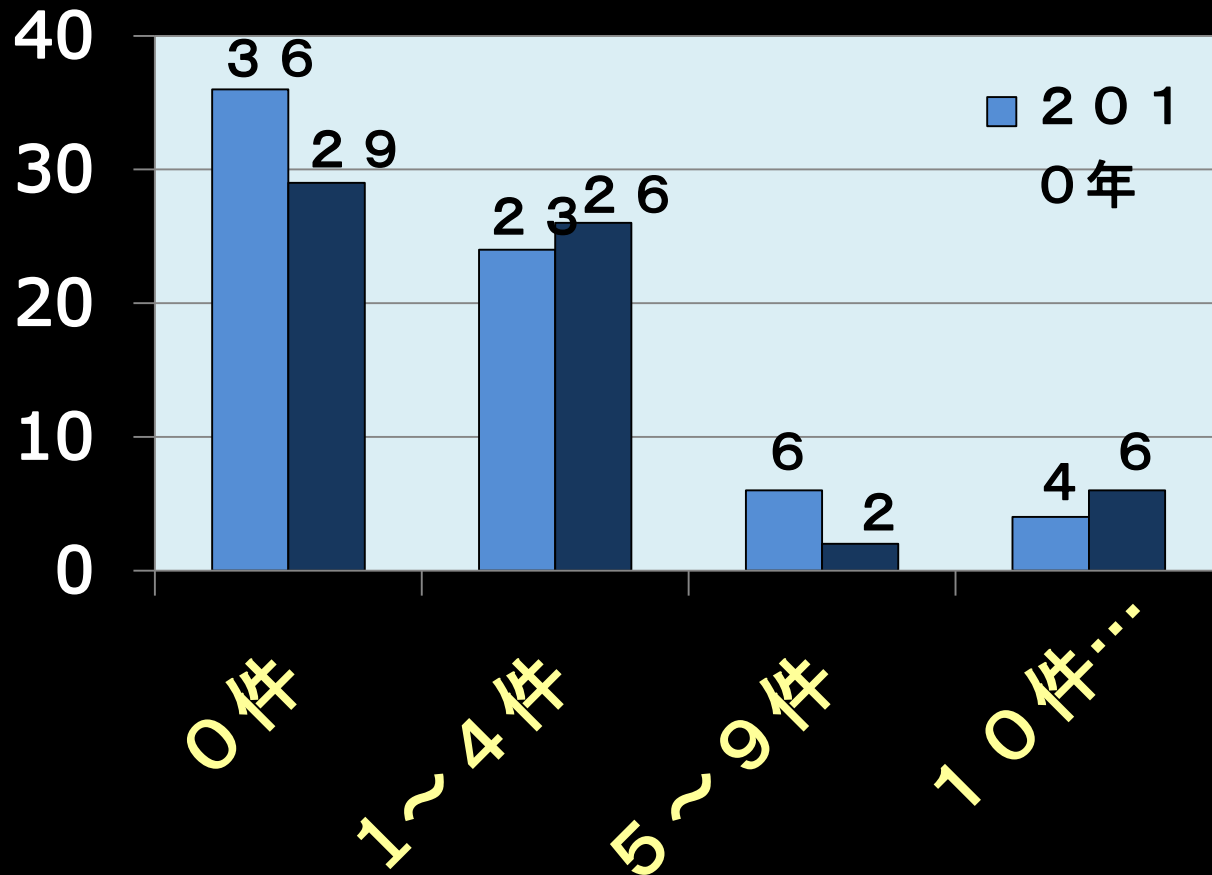
訪問診療可能な医療機関 (医療機関数) 2010年 n=72 2012年 n=60



在宅での看取り件数（調布市）

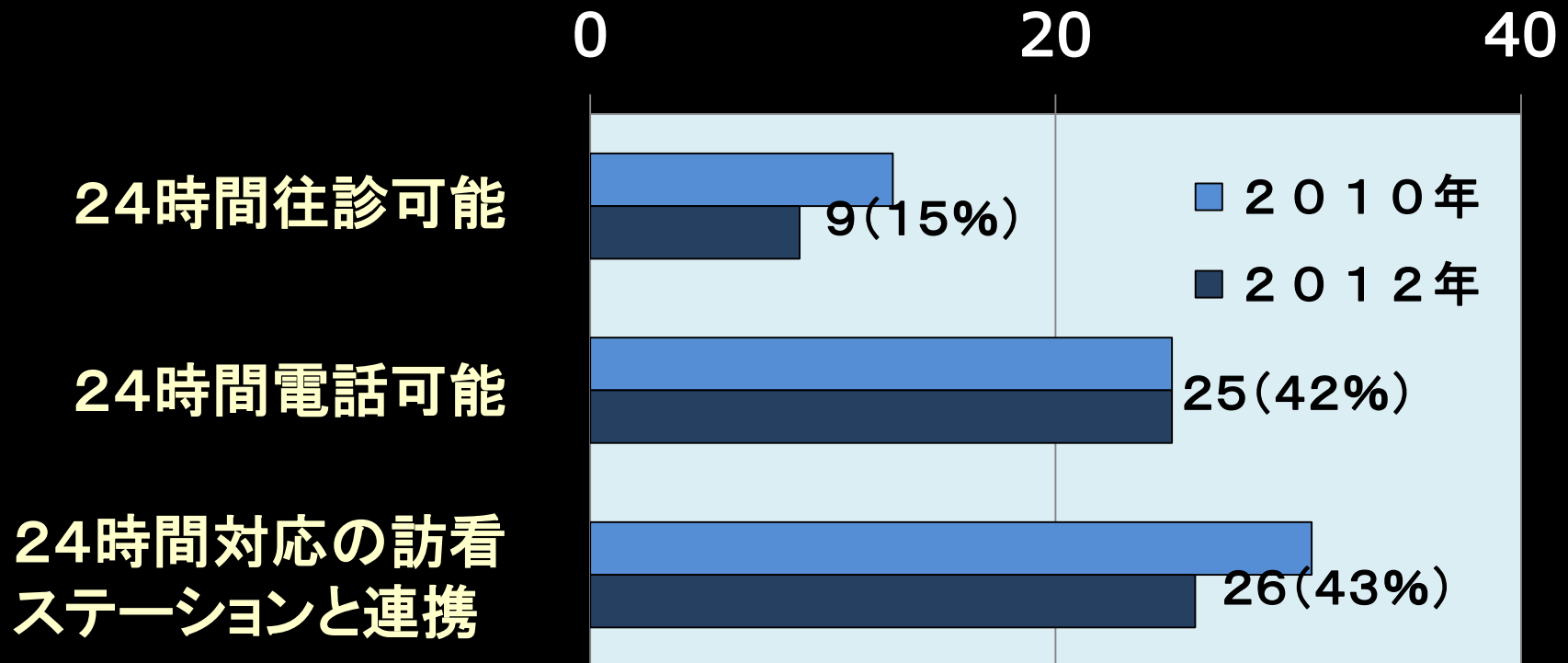
訪問診療可能な医療機関 2010年 n=72
2012年 n=63

(医療機関数)



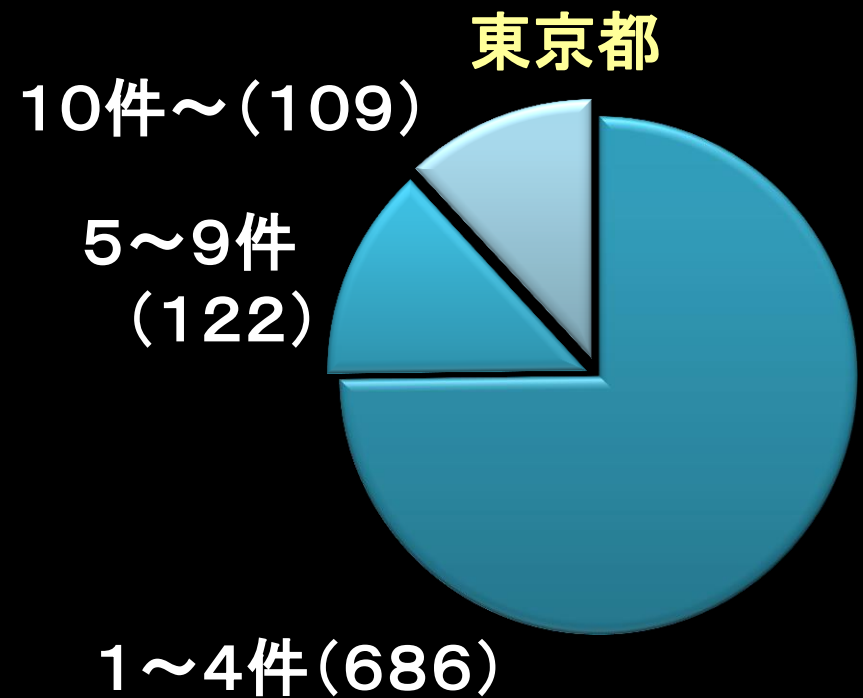
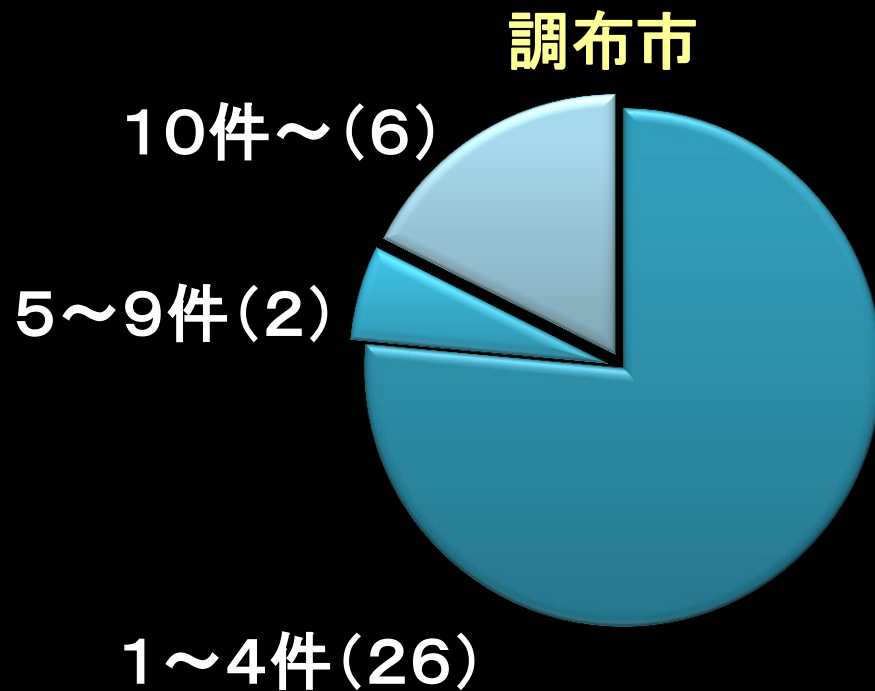
24時間体制について（調布市）

訪問診療可能な医療機関 2010年 n=72
2012年 n=60



年間看取り件数の分布 (東京都全域との比較)

看取りを行っている医療機関 2012年 n=34



在宅医療機能を強化した医療機関

- 在宅療養支援診療所 17
- 強化型在宅療養支援診療所 7
 - 独立型：在宅専門クリニック 2
 - 連携型：診療所 1グループ(診療所5 + 病院1)
- 在宅療養支援病院 1
- 機能強化型在宅療養支援病院 1

- 在宅患者30件以上を受け持つ医療機関 8
- | | 担当患者数 | 看取り件数(過去1年) |
|--|-------|-------------|
|--|-------|-------------|

A診療所	35	9
B診療所	120	26
C診療所	64	8
D在宅専門	127	23
E診療所	78	10
F診療所	215	15
G在宅専門	349	40
H病院	52	14

在宅死亡の増加に対応できるか

調布市死亡統計

	2008年	2009年	2010年	2011年
死亡場所				
自宅	170(12.6%)	193(13.7%)	224(14.5%)	237(15.5%)
施設	24 (1.8%)	31 (2.2%)	36 (2.3%)	40 (2.6%)
病院	1129(83.6%)	1156(81.9%)	1256(81.4%)	1224 (79.9%)

市内診療所の看取り総数

2008年12月～2009年12月	151件
2011年 4月～2012年 4月	153件

在宅医療相談窓口「ちょうふ在宅医療相談室」

目的：
・病院医療から在宅医療へのシームレスな移行
・地域の在宅医療に関する総合窓口

開設：平成22年10月
(東京都在宅医療連携推進事業→東京都包括補助事業)

設置場所：医師会事務局

スタッフ：3名

登録医：42名(内、外、小児、皮膚、眼、耳鼻、精神)

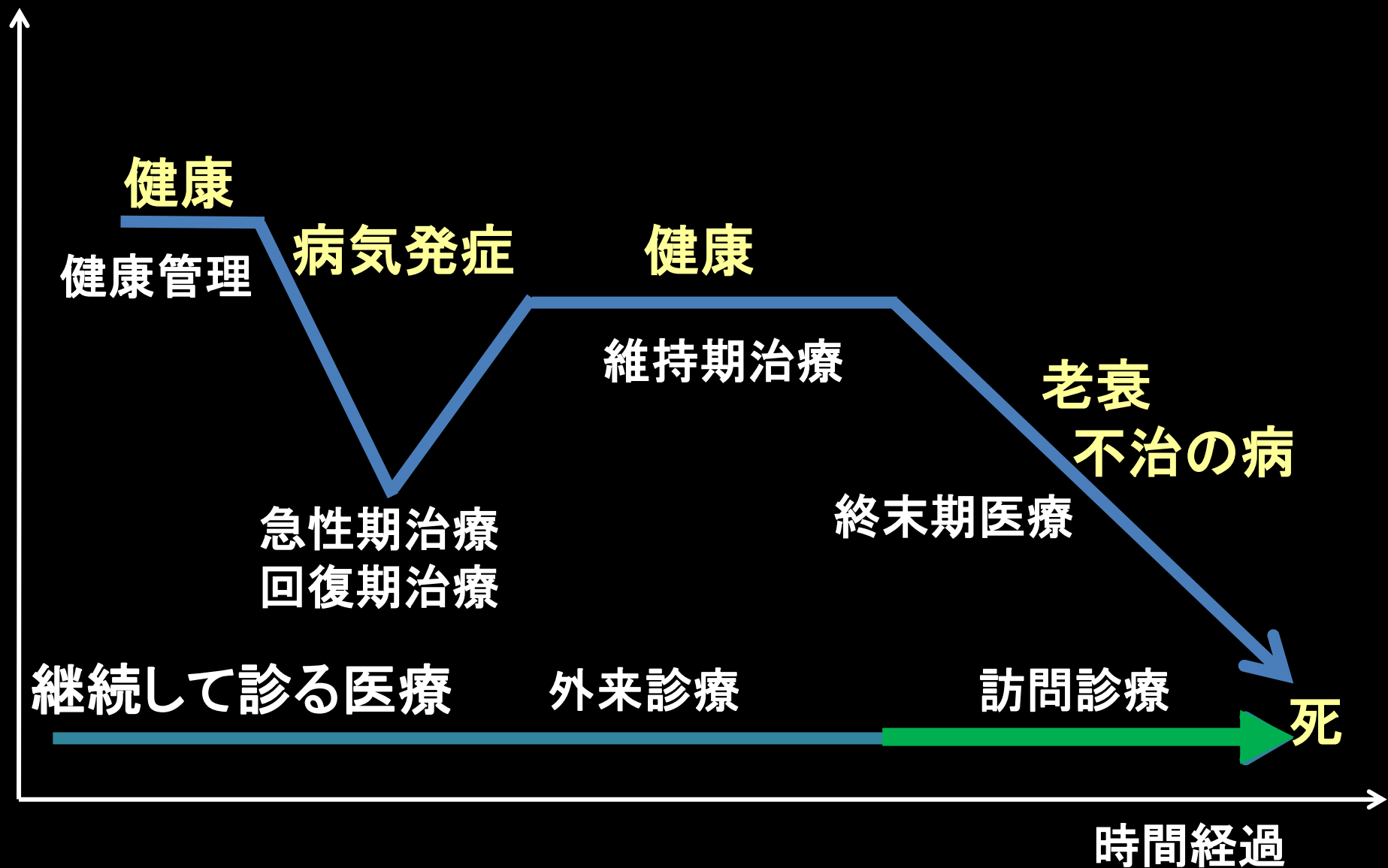
事業内容：
・在宅医の紹介
・在宅医療に関する相談対応
・多職種を対象とした勉強会の開催
・多職種からなる運営協議会(在宅医療推進会議)

都市の在宅医療に求められるものは・・・

都市の在宅医療事情

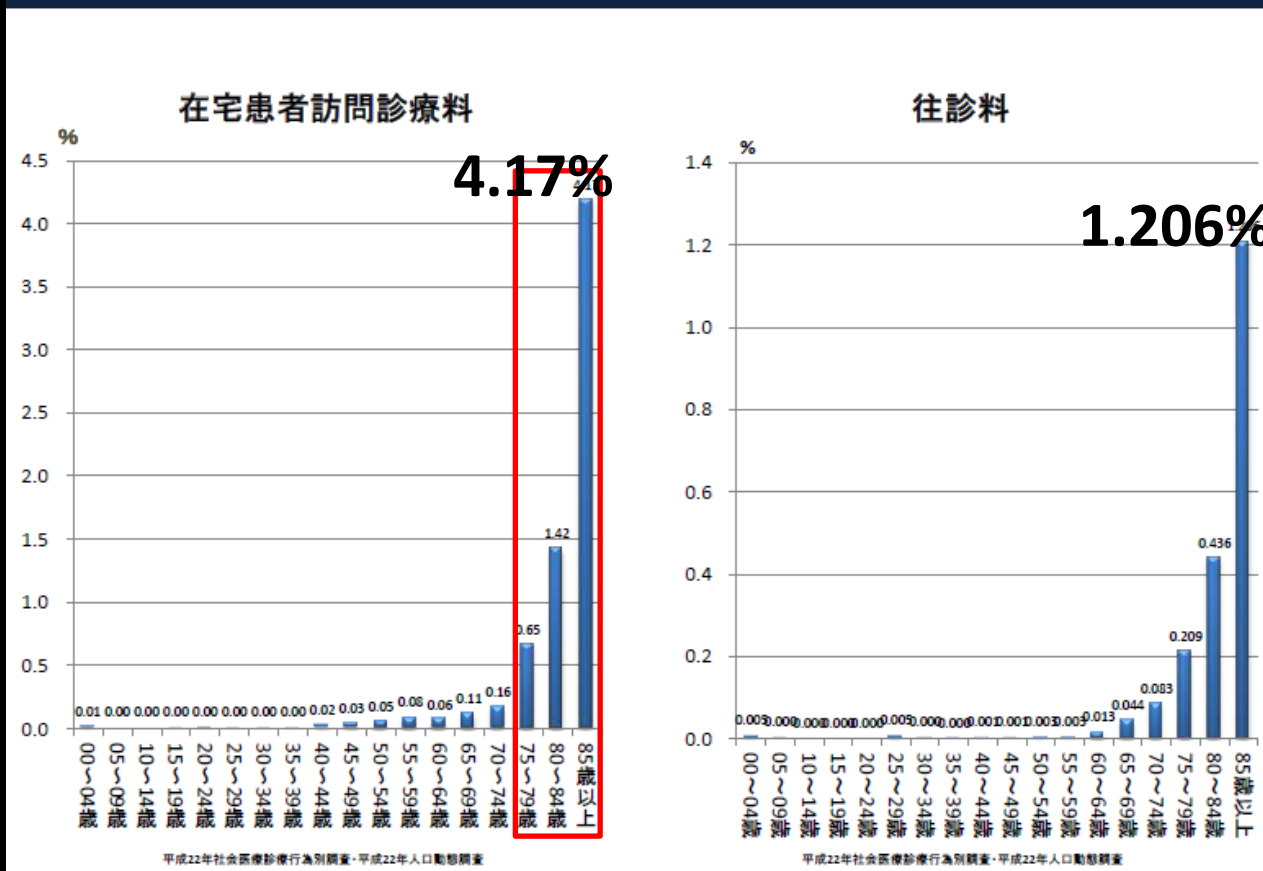
- ・医療ニーズの高い在宅療養者の増加
- ・自宅に介護スペースと介護力がない。
- ・訪問診療を行うかかりつけ診療所が多くない。
- ・診診連携構築が困難。
- ・在宅療養者の後方支援病床が足りない。
- ・重症在宅療養者の短期滞在場所がない。
- ・地域で十分なリハビリを継続できない。
- ・地区行政と医師会の連携が未熟。

かかりつけ医の役割



在宅医療を受ける患者の人口比

在宅医療を受ける患者の人口比(訪問診療・往診)



都内で訪問診療を受けた75歳以上人口 21651人 / 都内内科系診療所 4373件
= 5.0人

都市の在宅医療に求められること

- ・“24時間365日”を重視した医療？
 - 大規模医療機関が主導
- ・“継続性”、“地域性”を重視した医療？
 - 地域のかかりつけ医が主導

両立するためには……

- ・診療所のネットワーク化によって24時間365日の安心を確保
 - 医師会が主導
- ・末期がん等重症患者に対する複数医師体制の医療
 - 在宅医療機能を強化した医療機関が主導

加えて……

- ・地域の在宅医療のゲートキーパーとしての拠点が必要。



開業医は足だ
片足折れなば片足にて走らん
両足折れなば手にて走らん
疲れても走れ
寝ても走れ
走りに走りて生涯を終わらん

明治
40年正月

ご清聴ありがとうございました